

経営成績に関する分析

2015年度の業績につきましては、前年度のアジア地域の合併会社の持分取得(子会社化)に伴い、売上高は5,357億46百万円(前年同期比105.6%増)となりました。営業利益は、合併会社の持分取得の影響と、それに伴うのれんおよび無形固定資産の償却費用を販売管理費に計上した結果、713億52百万円(前年同期比111.4%増)、経常利益は746億6百万円(前年同期比51.4%増)となりました。また、前年同期に上記子会社化に伴い特別利益として段階取得に係る差益1,488億円を計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は300億20百万円と前年同期比83.5%減となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。なお、海外の事業会社においては一部を除いて12月期決算を採用しており、2015年度の対象期間は2015年1月から12月となります。

日本

当地域では、自動車生産台数が減少するなか、シェア拡大に努めた結果、自動車用塗料の売上高は前年同期並となりました。工業用塗料については、市況の低迷に伴い建築資材や建設機械向け塗料の出荷が減少したことなどから、売上高は前年同期を下回りました。汎用塗料の売上高は、市況が低調に推移するなか、新製品の拡販を含め販売促進活動に努めた結果、前年同期を上回りました。

これらにより、当地域セグメントの売上高は1,742億80百万円(前年同期比6.9%減)となりました。また、営業利益には、2014年10月1日から持株会社に移行したことに伴い、海外グループ会社からの受取配当金(281億27百万円)を計上していることや、継続的な原価低減活動により、営業利益は572億87百万円(前年同期比67.3%増)となりました。なお、この受取配当金は内部取引として全額「セグメント間取引消去その他の調整額」として消去しております。

アジア

当地域では、前年度のアジア地域の合併会社の持分取得(子会社化)に伴い売上高・営業利益が大幅に増加しました。特に、アジアセグメントの中核地域である中国において、住宅内装用塗料などの汎用塗料の売上高が堅調に推移しました。一方で、子会社化に伴い、持分法投資利益は減少しました。

これらにより、当地域セグメントの売上高は3,173億96百万円(前年同期比623.5%増)となり、営業利益は377億48百万円(前年同期比733.3%増)、持分法投資利益は12億3百万円(前年同期比91.5%減)となりました。



米州

当地域では、自動車生産台数が増加したことなどから、売上高は増加しました。また、ドル高(円安)による日本からの輸入原材料費の低下を含め、継続的な原価低減活動により、収益性が大幅に改善しました。

その結果、当地域セグメントの売上高は331億56百万円(前年同期比28.5%増)に、営業利益は51億77百万円(前年同期比92.8%増)となりました。

その他

当地域セグメントの売上高は、ドイツ塗料メーカーのポリグ&ケンパー(以下、B&K)を連結子会社化したことに伴い109億12百万円(前年同期比193.3%増)となりました。営業損益は、のれんの償却負担増もあり8億97百万円の損失(前年同期は69百万円の利益)となりました。

2016年度の見通し(2016年9月30日時点)

次期(平成28年12月期)の連結業績予想値は、決算期変更が予定されているため、当社ならびに3月決算の子会社は、4月から12月の9ヶ月間を、12月決算の子会社は1月から12月の12ヶ月間を、連結対象期間としております。

国内は、緩やかな景気の回復が期待されるものの、先行きが不透明な状況が続いております。このような状況のもと、自動車用塗料は、自動車生産台数が微増と予測されるなか、シェアの拡大・部品メーカーへの新規参入を図ります。汎用塗料は引き続き顧客ニーズに沿った新製品の市場投入を推進しシェアの拡大を図り、工業用塗料は住宅資材向け塗料において、新製品を市場投入するなど、重点市場における地位の確立を図ります。

なお、原油・ナフサ価格の動向など、先行きは不透明ながら、従来から取り組んでまいりました3つの安価戦略(設計・調達・製造)を推進し、さらなる原価低減に努め、利益を確保いたします。

アジアは、中国をはじめとする新興国において引き続き景気の減速が見込まれます。このような状況のなか、当地域においては、50年来の合併事業パートナーであるシンガポールのウットラムグループと展開するNIPSEA^{*}と事業戦略の共有を図り、グループ一体となった事業運営を遂行することにより、製品・サービスの付加価値をさらに高めてまいります。また、中核である中国においては、引き続き中国版サバイバル・チャレンジ(Lean for Growth)による原価低減を図り、コスト競争力をつけ、高いブランド力を背景に需要を創造・喚起してまいります。

自動車用塗料を中心に展開している米州では、自動車生産台数が引き続き好調に推移する見込みであり、売上高・利益の維持・拡大を図ります。その他地域においては、欧州での自動車生産台数が堅調に推移する見込みであり、2015年4月に連結子会社化したB&Kを通じて、シェアの拡大を図るとともに、収益性の改善を目指してまいります。

これらにより、2016年度の連結業績予想につきましては、売上高5,000億円、営業利益710億円、経常利益740億円、親会社株主に帰属する当期純利益340億円を見込んでおります。

※ アジア地域で事業を運営するNippon Paint South East Asiaの略

